

やましんかわら版は
山新販売店と読者を結ぶ
ミニコミ紙です

やましんかわら版

発行部数 9万7,000部

毎月5日発行

新聞休刊日のため2月12日(火)付朝刊はお休みさせていただきます。どうぞよろしくお願いたします。



かわら版編集部

〒990-2323 山形市桜田東二丁目3-8-7
《ホームページ》http://www.yamashinhanbai.jp/
《メール》kawaraban@yamashinhanbai.jp
読者お問い合わせ窓口
TEL.023-635-6111 (山新販売内)

今月の
いちばん
情報!!

猫たちが幸せに生きられる環境を! 動物愛護精神に満ちた譲渡会。



沖津さんをはじめ、えんたね猫スタッフの皆さん。一匹でも多くの猫を救おうと、定期的に譲渡会を開催されています。情報はフェイスブックで検索ください。

はるか昔から、人の暮らしの側にいた猫。彼らの多くは、愛猫家の家族として幸せな生活を送っていますが、その一方では生きる場を失い、その小さな命を失ってしまう、また、人の暮らしを害する動物として、駆除される猫もいます。今月は、そんな猫たちの里親を探すために奔走する、村山動物愛護推進有志の会・えんたね猫の譲渡会にお伺いし、主宰の沖津由美さんと山村牧子さんにお話を伺います。

Q、譲渡会を開催するに至った理由は。

▶ 普段はかわいらしい猫ですが、ノラ猫への誤った餌やりや飼育を続けると、その強い繁殖力によって爆発的に増えてしまう場合があります。例えば飼ひ猫であっても、多頭飼育が維持できなくなると、それは問題になってしまいます。若い方なら、SNSなどインターネットを使って、新たな飼ひ主を見つけられたりできますが、ネットが苦手な方は新しい飼ひ主探し的手段に苦労されているのが現状です。結果、自治体に引き取られる猫が増えていきます。

特に幼齢の猫たちは、飼ひ主が見つからなければ、生きていけない。だからこそ私たちは、有志の仲間とともに、定期的に、譲渡会を開催することにしました。初回は一昨年秋。それからは村

山や置賜地域で譲渡会を開催し、今まで約200頭の猫たちを、新しい家族の元へと送り出してきました。スタッフは皆、もともと猫を拾っては、里親探しを個人的にしてきた経験の持ち主。有志と言うよりは、この活動が私たちのライフワークになっています。

Q、なぜ、猫は増えるのですか?

▶ 一番は、“かわいそう”などを理由に、不妊手術をしていないことです。猫たちの繁殖力は、皆さんの想像以上に強いもの。環境省のパンフレットによれば、3年後には理論上2,000頭以上に増えることもあるのです。昔は、ノラ猫に餌を与えたりすることも、日常風景のひとつでしたが、住環境が大きく変わった今では、ノラ猫の大量発生は地域の問題となり、結果必死に生きている猫たちは、殺処分という道をたどるかも知れません。そうならないために、不妊手術の必要性を訴えながら、私たちは良き飼ひ主との出会いを信じて、譲渡会を開催しているのです。

山形は、全国的に見て自治体に引き取られる保護猫数が少なく、譲渡率も高く、殺処分数が少ない県だと認知されていますが、猫自体の出生率は他県と変わりません。保健所や施設に引き取られていないだけで、人の目に触れないところで、県がまとめた頭数の2倍以上は亡くなっていると考

えられます。

Q、私たちが、今できることは?

▶ 猫たちは人の側でしか生きていけない存在です。だからこそ、きちんと責任をもって飼育しなければなりません。不妊手術を施して、愛情をもって育てなければ、しかし誤った愛情は、ノラ猫の大量発生をはじめとした、住民間でのトラブルに発展する場合があります。その原因に多いのは「かわいそうだから餌を与えた」等の無責任な飼育にあります。猫が好きであればなおさら、そんな無責任な飼ひ主・育て主は考え方を変えていかなければいけないと思います。

猫と人との距離はとても近いものだからこそ、現代では人によるコントロールが必要。もし、私たちの活動に賛同してくれる方がいらっしゃるなら、ぜひ譲渡会に参加して、一頭でも多くの猫たちが、幸せな日々を過ごせるようご協力ください。

えんたね猫 保護猫の譲渡会



えんたね猫 保護猫の譲渡会

検索

左/えんたね猫主宰の沖津由美さん(左)と山村牧子さん。県知事委嘱の山形県動物愛護推進協議会の委員でもあります。

中/1月14日に山形ファミリーボウルにて行われた譲渡会では、ご家族連れの愛猫家たちが多く来場されました。その中から一つでも多くの出会いが生まれることを望みます。

右/えんたね猫では、譲渡の際に、不妊手術や飼ひ方についての誓約書を交わすそうです。それは、心ある飼ひ主の元へ、彼ら猫たちを送り出すための約束事となっています。

